

教 育

1. 1 年次総合農業科学演習

前期（専門基礎科目）・必修・2単位

履修者：127名

実習担当教員：齊藤 他

実施場所：岡山農場

6/16, 6/23の2日間、同演習を履修した2つの学生グループに対して、山陽圏フィールド科学センターの紹介および田植え体験実習を岡山農場にて実施した。

2. 1 年次農場体験実習

前期集中（専門基礎科目）・選択・2単位

（農学部以外の学生にとっては、教養教育科目となる。）

履修者：6名（環境理工2，理，歯，法，農各1）

実習担当教員：吉野 他

技官：山奥 他

実施場所：岡山農場他

回	月	日	時 間	実 習 内 容	担 当 者
1	6.18	16:00		オリエンテーション，班分け	吉野，福田
2	8. 4	08:30-16:30		センター第2実習室に服装を整えて集合 A班 } クロップングシステム部門 B班 } 装置化生産部門 班ごとにセンター内岡山農場で実習	吉野，黒田 福田
3	8. 5	08:30-16:30		同 上	
4	8. 6	08:30-12:00		同 上	
		12:40-16:30		全員学バスにて津高牧場へ移動，牧場実習	及川
5	8. 7	08:30-16:30		A班，B班の実習内容を入れ替えて センター内岡山農場で実習	吉野，黒田，福田
6	8. 8	08:30-12:00		台風のため午前で終了	

A，Bの2班に分け，午前と午後で異なる部門で実習を行った。他学部の1年次生の履修希望が多いものの，単位取得の上限制度により履修できない学生が毎年数人いた。本実習の目標として当初，大学に入学するまで触れあう機会が少なかったであろう

新入生に，自然と農業に触れてもらうことを目指したのだが，上記のような事情があるため，対象年次を拡大した。実習内容を含めて，今後の検討課題としたい。

3. 2 年次基礎農場実習 I ・グループ別実習（ダイズ）

前期（専門基礎科目）・選択必修・2 単位

履 修 者：19名

担当教員：吉野 他

グループ別実習担当教員：吉野，黒田

実施場所：岡山農場他

回	月 日	実 習 内 容	担 当 者
1	4.15	オリエンテーション・グループ分け グループ別実習	吉野，福田 吉野，黒田・山奥，酒井
2	4.22	ムギ類の形態観察と交配操作	吉野
3	5. 6	和牛の取り扱いと乾草調製	岸田・野久保，川畑
4	5.13	圃場管理他	黒田・山奥，酒井
5	5.20	甘藷の定植	吉野・山奥，酒井
6	5.27	モモの摘果 ナスの整枝	福田・近藤，永田 村上・山本
7	6. 3	バレイショ・タマネギの収穫	吉野・山奥，酒井
8	6.10	ブドウのジベレリン処理 スイカの整枝（第1回）	久保田・近藤，永田 村上・山本
9	6.17	ブドウの摘粒 スイカの整枝（第2回）	福田・近藤，永田 村上・山本
10	6.24	水稻移植と水田管理	齊藤・多田
11	7. 1	ネギの定植	村上・山本
12	7. 8	和牛の管理	及川・野久保，川畑
13	7.15	農協などの見学	小松
14	7.22	農業用ロボットによる省力作業 引き続いて，スイカの収穫	門田 村上・山本
15	7.29	レポート・アンケート・片づけ他	吉野

グループ別実習は，5 班に分かれて枝豆栽培を行い，観察結果をレポートにまとめた。

4. 2年次基礎農場実習Ⅱ・グループ別実習（果樹）

前期（専門基礎科目）・選択必修・2単位

履修者：17名

担当教員：吉野，福田 他

グループ別実習担当教員：福田

実施場所：岡山農場他

回	月 日	実 習 内 容	担 当 者
1	4.15	オリエンテーション・グループ分け キクの挿し芽と定植 グループ別実習	吉野，福田 後藤・山本 福田・近藤，永田
2	4.22	果菜類の定植（スイカ・ナス）	村上・山本
3	5. 6	ムギ類の形態観察と交配	吉野
4	5.13	和牛の取り扱いと草地管理	岸田・野久保，川畑
5	5.20	モモの摘果	久保田・近藤，永田
6	5.27	甘藷の定植	黒田・山奥，酒井
7	6. 3	バレイショ・タマネギの収穫	吉野・山奥，酒井
8	6.10	ブドウのジベレリン処理 スイカの整枝（第1回）	久保田・近藤，永田 村上・山本
9	6.17	甘藷の管理 スイカの整枝（第2回）	黒田・山奥，酒井 村上・山本
10	6.24	水稻移植と水田管理	齊藤・多田
11	7. 1	和牛の管理	及川・野久保，川畑
12	7. 8	カキの摘果	福田・近藤，永田
13	7.15	農業用ロボットによる省力作業 スイカの収穫	門田 村上・山本
14	7.22	農協などの見学	小松
15	7.29	モモの接ぎ木 レポート・アンケート・片づけ	福田・近藤，永田 福田

ブドウの一連の栽培管理を体験，修得することを目的に，4グループに分かれて，‘デラウェア’および‘ピオーネ’の栽培を行った。萌芽後の芽かきから，捻枝，摘芯や副しょうの摘葉まで，一連の新しょう管理を体験できた。果実の管理では，‘デラウェア’のジベレリン処理が的確に行えず，着粒不足の房が多いグループもあった。一方，‘ピオーネ’

では，結実は十分であったが，その後の摘粒で，ほとんどの学生が着粒数を多めに残す傾向にあり，全体的に大房となった。そのため，7・8月の高温とも関連して着色が悪かったものの，糖度は高く，両品種とも，収穫時の試食会では，味に満足していた。ブドウの栽培管理を知るとともに，栽培する楽しさを実感できたと考えられた。

5. 2年次基礎農場実習Ⅲ・グループ別実習（秋野菜）

前期（専門基礎科目）・選択必修・2単位

履修者：5名

担当教員：吉野 他

グループ別実習担当教員：吉野，黒田

実施場所：岡山農場他

回	月 日	実 習 内 容	担 当 者
1	10. 6	オリエンテーション セル播種 グループ別実習	吉野 後藤・山本 吉野・山奥，酒井
2	10.20	水稻収穫・収量調査	齊藤・多田
3	10.27	タマネギの定植	村上・山本
4	11.10	ムギ類の播種	吉野
5	11.17	作付計画	黒田
6	12. 1	イチゴの整枝 キクの芽かき	吉田・山本 後藤・山本
7	12. 8	サトイモの収穫・貯蔵	吉野・山奥，酒井
8	12.15	秋野菜の収穫・圃場管理	黒田・山奥，酒井
9	12.22	子牛の去勢	及川・野久保，川畑
10	1. 8	（木曜日）草地の管理	岸田・野久保，川畑
11	1.19	イチゴの収穫 ブドウの剪定	吉田・山本 久保田・近藤，永田
12	1.26	カキ・モモの剪定	福田・近藤，永田
13	2. 2	花き栽培農家の見学	後藤
14	2. 9	農業用機械の構造と操作	難波
15	2.16	レポート・アンケート・片づけ	吉野

グループ別実習は5班に分かれて、ハウレンソウ てレポートにまとめた。
の密植・疎植による生育状況と収量の違いを観察し

6. 2年次基礎農場実習Ⅳ・グループ別実習（家禽）

前期（専門基礎科目）・選択必修・2単位

履修者：7名

担当教員：及川 他

グループ別実習担当教員：岸田

実施場所：岡山農場他

回	月 日	実 習 内 容	担 当 者
1	10. 6	オリエンテーション セル播種 グループ別実習	及川 後藤・山本 岸田
2	10.20	カキの収穫・脱渋	福田・近藤、永田
3	10.27	和牛の管理（津高牧場）	及川・野久保、川畑
4	11.10	畜産農家の見学	岸田
5	11.17	牛の審査	及川・野久保、川畑
6	12. 1	キクの芽かき イチゴの整枝	後藤・山本 吉田・山本
7	12. 8	サトイモの収穫・貯蔵	吉野・山奥、酒井
8	12.15	秋野菜の収穫	黒田・山奥、酒井
9	12.22	子牛の去勢	及川・野久保、川畑
10	1. 8	（木曜日）草地の管理	及川・野久保、川畑
11	1.19	ブドウの剪定 イチゴの収穫	久保田・近藤、永田 吉田・山本
12	1.26	家禽類の解体・処理	岸田
13	2. 2	農業用機械の構造と操作	難波
14	2. 9	家禽類の飼育舎管理	岸田
15	2.16	牧場のコンピューター管理 レポート・アンケート・片づけ	及川・野久保、川畑 及川

後期：家禽班の希望者が多いため、人数の調整を行った。その結果、7名の学生を家禽班に分け、原則として2人1組で土・日曜日を除く毎日、午前8時頃と午後4時頃の1日2回に飼養管理を担当する体制で実施した。学生達による鶏の飼育期間は10月29日～1月19日であった。孵化直後のおかやま地どりのヒナに対し、制限・不断給餌区を設定し、成育相の違いを7日ごとの体重調査と外部形態の変化か

ら記録し観察を行った。学生達を書いた野帳に、ヒナから成鳥までの変化が克明に記録されており、家禽類の飼養管理に対する興味の強さが伺われた。学生によっては、土日の休日にTAと飼育管理を行っていた。なお、1月19日に家禽班の全員がおかやま地どりの解体処理を実施したところ、その評価は上々だった。

7. 2 年次農家体験実習

2003年度から新規に開講した農家体験実習を15名の学生が履修した。開講にあたって、学生の希望、受入先農家の交渉と日程等に関する調整を行った。そして、8月～9月の夏季休暇中の、8月1日～5日、8月2日～6日、8月1日～22日、8月25日～29日、9月1日～5日、9月9日～13日、9月15日～19日に、学生は受入先の農家で実習に励んだ。受入先農家の経営形態は、果樹、稲作、和牛、乳用牛等と多岐に渡っており、果樹の栽培や牛の飼育管理だけでなく、農家と一緒に果実の流通・販売にかか

わったり、家畜市場においてセリに参加する等、貴重な経験を積むことが出来た。なお、学生には野帳を配布し、作業内容や感想はもちろんのこと、健康状態をチェック出来るように配慮した。また、担当教員と農家とが連絡を取り合いながら、各班の巡回も実施した。

作業や受入先での暮らしを通じて、学生は農家の経営に対する理念や生き様にも触れることができ、地域農業に対する見方も深まり、有意義な5日間を過ごした。その成果は学生による授業評価アンケートに反映されていた。

農家の学生に対する評価も高く、すべての農家が次年度も受入を希望した。

8. 3 年次作物集中実習

前期集中（専門科目）・選択・1単位

履修者：3名

担当教員：黒田、吉野、福田、後藤

技 官：山奥、山本、近藤、酒井、永田

実施場所：岡山農場他

回	月 日	時 間	実 習 内 容	担 当 者
1	9.22	08:30-08:45	オリエンテーション	吉野
		08:45-12:00	ブドウの収穫・調整、モモの接ぎ木	福田・近藤、永田
		13:00-17:00	イチゴの定植	吉野・山本
		17:00-17:30	レポート・片づけ	吉野
2	9.24	08:50-11:45	生花卸売市場見学	後藤
		11:45-12:00	レポート	後藤
		13:00-17:00	測量基礎・ビニールハウス建設	黒田、吉野・山奥、酒井
		17:00-17:30	レポート・片づけ	黒田
3	9.25	08:30-12:00	ビニールハウス建設、農業機械操作	吉野、黒田・山奥、酒井
		13:00-17:00	ビニールハウス建設	吉野、黒田・山奥、酒井
		17:00-17:30	レポート・片づけ	吉野
4	9.26	08:30-12:00	播種、ビニールハウス建設	黒田、吉野・山奥、酒井
		13:00-17:00	間引き、植え付け	黒田・山奥、酒井
		17:00-17:30	レポート・片づけ	黒田

毎年履修生は少なく、もっとも暑い時期であるので学生はつらいことも多い。しかしそれだけにかえて教員・技官・履修生の間の交流の密度が高く、教育効果は高いと考えられる。とくにゼロからスタ

ートするビニールハウス建設は、学生にとって非常に大きな満足感を得られるもののようである。

9. 3 年次牧場実習

前期集中（専門科目）・選択・単位互換実習・2 単位

履修者：32名（岡山大学25，鳥取大学 4，島根大学 3）

担当教員：及川 他

技 官：野久保，川畑

実施場所：津高牧場

回	月 日	実 習 内 容	担 当 者
1	9. 8	オリエンテーション・見学	及川
2		機械実習	岸田，野久保・川畑
3		畜舎実習	野久保・川畑
4		講義：21世紀の畜産経営	横溝
5	9. 9	牧場管理	岸田
6		畜舎実習	野久保・川畑
7		直腸検査の基礎と応用	奥田
8		飼料の貯蔵と利用	西野
9	9.10	畜舎実習	野久保・川畑
10		牛の品種と遺伝的特性	佐藤（勝）
11		牧場管理	及川
12		畜舎実習	野久保・川畑
13		和牛の審査	及川
14		人工授精と受精卵移植の基礎	舟橋
15	9.11	畜舎実習	野久保・川畑
16		講義：食肉の色調変化	泉本
17		牧場管理	及川
18		畜舎実習	野久保・川畑
19		草地の管理	岸田
20		和牛の衛生管理	近藤・阿部
21	9.12	畜舎実習	野久保・川畑
22		牧場管理	吉野
23		畜舎実習	野久保・川畑
24		乳の加工と検査法	宮本
25		講義：牛の繁殖管理	坂口

今年度の牧場実習は鳥取大学，島根大学からの参加者を合わせて32名の人数で行った。実習終了後の実習に対する感想をみると，実習に対する満足度が高かった。今年は，畜産加工の実習が組まれていた

ため，畜産加工品に対する関心も高まったようである。最初に，実習の2 単位化について説明をしていたことより，講義時間に対する不満はあまりみられなかった。

10. 3 年次総合演習 X

後期集中・選択・1 単位

履 修 者：21 名

担当教員：吉野・川口（教育学部附属
養護学校）

技 官：山奥 他

実施場所：岡山農場

本演習の到達目標は、現代社会における養護教育の位置と必要性とを理解し、その実践に携わる際の心構えを体得することである。教職単位の取得を希望する者に限る。事前に農学部附属山陽圏フィールド科学センター開講の実習のいずれかを履修しておくことが望ましい。

1. 基礎理論と見学（教育学部附属養護学校）

(1) 障害のある生徒の教育課程と指導法

1) 障害のある児童生徒の学校教育

2) 知的障害養護学校の教育

- 養護学校の概要（児童生徒の実体、施設設備）
- 高等部の教育課程（教育目標、教育内容、指導の形態他）
- 高等部教育の実際（領域・教科を合わせた指導—作業学習他、領域・教科別の指導）

(2) 授業参観および施設見学

2. 養護学校教員の指導の下で、実際の行事または授業に参加する。以下 2. 3. 4. の実施日時は追って教務学生係に掲示する。

3. 1 日フィールド科学センターにおいて、栽培演習を行う。

4. 職場体験学習の指導（農学部附属山陽圏フィールド科学センター）

(1) 職場体験学習の目的

- 1) 校外で働く経験を通して学校と職場との違いを理解させ、「仕事」に対する心構えを持ち、前向きに取り組もうとする態度を養う。
- 2) 一つ一つの仕事を丁寧に最後までやり遂げさせ、働くことの大切さや達成感を感じ取らせる。

(2) 1 日センターにおける職場体験学習に参加し、養護学校教員およびセンター技官の指導の下で、センターという職場における作業を生徒とともに行いつつ、生徒の反応を十分に観察・対応して、生徒に上記目的を達成させるためにはどのように指導するべきかを体得する。クロッピングシステム部門、装置化生産部門（野菜・花きおよび果樹）のいずれかの現場において演習を行う。

(3) 養護学校およびセンターにおいて討論会を行いレポートを提出する。

回	月 日	実 習 内 容	担 当 者
1	6.18	センターにてオリエンテーション	吉野
2	7. 8	養護学校にて講義・見学	川口 他
3		事前実習・参加日程 (センターでの農場体験学習)	吉野
	8. 5	4 名	
	8. 7	4 名	
	8. 8	4 名	
4	9.30	養護学校にて講義・見学	川口 他
5		職場体験学習・参加日程	
	10. 1	5 名（うち 1 名は 10. 2 も参加）	吉野
	10. 2	5 名	
	10. 3	3 名	

障害の程度が比較的軽い生徒が多かったため、学生は前年度ほどは苦勞しなくてすんだ。しかし、養護学校の側としては、「生徒に職場の厳しさを体験させるという本来の趣旨からすると、生徒達の注意

が学生との交流に向かいすぎて、作業に集中できない場面があった」との意見が出され、次年度は検討すべき課題を残した。

11. 岡山大学教育学部 2 年次栽培演習

前期選択（専門科目）・1 単位

履修者：4 名

担当教員：吉野 他

技 官：山奥 他

実施場所：岡山農場

回	月 日	実 習 内 容	担 当 者
1	4.14	オリエンテーション	吉野
2	4.21	キクの挿し芽	後藤・山本
3	4.28	ナスの定植	村上・山本
4	5.12	ムギ類の形態と交配操作	吉野
5	5.19	甘藷の定植	吉野・山奥、酒井
6	5.26	モモの摘果・袋かけ	福田・近藤、永田
7	6. 2	ブドウのジベレリン処理	久保田・近藤、永田
8	6. 9	バレイショの収穫	黒田・山奥、酒井
9	6.16	作付計画	黒田・山本
10	6.23	ナスの誘引と収穫	村上・山本
11	6.30	カキの摘果	久保田・近藤、永田
12	7. 7	花きの播種・鉢上げ	後藤・山本
13	7.14	八浜農場見学	齋藤・多田
14	7.28	モモの接ぎ木	福田・近藤、永田
15	8. 1	(金) レポート・アンケート・片づけ他	吉野

毎年履修生は数名と少なく、しかも 3 限のみの実習であり、学生のほとんどは 4 限の授業もあるため、

担当教員の工夫と努力が要求されている。しかし履修生は熱心でまじめであった。

12. 岡山大学教育学部附属養護学校「職場体験学習」

教育学部附属養護学校・高等部2年生

履修者：8名（男子4名，女子4名）

付き添い教員：2名

担当教員：吉野 他

担当教員：吉野 他

実施場所：岡山農場

回	月 日	時 間	実 習 内 容
1	9.24	9:00-14:10	センターまでの交通機関利用の確認 センターの見学
2	10. 1	7:40	岡山駅集合
		8:30	センター着更衣後，開講式，各部門ごとに体験実習
		12:00-13:00	昼食休憩
		13:00-15:00	体験実習
		16:08	バス乗車
		16:40	岡山駅にて解散
3	10. 2		同上の体験実習
4	10. 3		同上の体験実習の後，反省会 閉講式（修了書交付）

教育学部附属養護学校・高等部2年生8名（男子4名，女子4名）を対象に行った。障害の程度は比較的軽い生徒が多かった。